

【2023 年度奨学金・第 1 回活動報告】

村上祐介(indust-film、映画制作)

2020 年から取り組んでいる連続ドラマ「portrait(s)」の制作を引き続き行なっています。

<思春期パート・クランクアップ>

「portrait(s)」はセクシャルマイノリティ(LGBT)の多様な人が登場する群像劇で、いくつかのパートから成り立っています。昨年から、子どもを中心に描く思春期のパートを撮り切るべく、撮影を進めてきました。

思春期のパートは、自分の好きな対象が男性ではないかと思い悩む小学6年生の男子：正岡倫典（まさおかともり）を中心に描くパートです。

大まかなシーンとしては、塾、学校、友達との交流、家のシーンがあります。

昨年、学校スタジオを借りて撮影を行ったのですが、撮りこぼした部分があり、その撮影を2月に行いました。年末年始を挟んだだけでも子どもたちの成長は著しく、昨年からの撮影以来、どんどん成長していく子どもたちを見ていると、シーンの繋がりが上手くいくかなどを心配していましたが、撮り終えた今は、そういった特別な時期の時間を映像に収める事が出来たのは、とても贅沢だと感じています。

3月には登下校のシーンを撮影し、倫典の友達役の2人、山岡廉怜（やまおかれんれん）役の小川翔大さんと本田大地（ほんだだいち）役のYUZUKIさんがクランクアップとなりました。この二人を含めた初めての学校での撮影は2021年の12月が最初でした。断続的ではありますが、1年4ヶ月もの間、「portrait(s)」に関わってもらった事になります。今まで行ってきた映画制作では、長くても3ヶ月程の撮影期間でした。今回は連続ドラマであり、全15話（予定）の為、撮影も制作も長期化しています。その為、映画に換算すると何本分の撮影をしているのだろうと思う事が多々あります。そんな中で、「portrait(s)」としては初めてのクランクアップだったので、ここまで到達出来たんだと、感慨深かったです。お二人には本当に感謝しかありません。



二人から撮影後の感想を頂いたので、合わ

せてシェアさせていただきます。

小川翔大さん



「portrait(s)山岡廉怜（レンレン）役の小川翔大です。一年以上レンレンを演じてきて、もし僕だったら同じようなことを言うだろうなっていうくらい感じ方や性格が似ていることが分かってきて演じやすかったです。撮影の思い出は、個人のお宅を借りてお泊りのシーンです。夏休みに友達同士で花火をするシーンが実は真冬に半ズボン…あれはさすがに辛かったです（笑）あと、村上監督は「もう一回お願いします」って言ったらだいたい3回は撮ります（笑）監督のこだわりに応えられるように頑張りました、3回！同級生3人のシーンが多くて仲良くなれたのも撮影の思い出で、待ち時間も楽しかったです。作品の完成が楽しみです！」

YUZUKI さん



「2021年12月に、初めて撮影に参加して、昨年から月1日～2日の撮影があり、今年の3月で撮影が終わりました。朝が弱いので、朝早い撮影は大変でしたが、楽しんで、撮影に参加できました。役作りでは、元気な田舎の少年をイメージしました。大丈夫だったでしょうか？学校の撮影では、年上の子役の方と知り合いになれて、いろんなことを学びました。僕も、4月から中学生。次は、劇団の夏の公演に向けてのレッスンも始まります。いろんなことができる声優を目指して、演技、ダンス、歌、アクションのレッスンを頑張りたいと思っています。監督さん始め、スタッフの皆様、今までありがとうございました。完成楽しみにしています。大地役 YUZUKI でした。」

学校、友達とのシーンを撮り終えた後は、塾でのクライマックスシーンと家のシーンを撮影しました。

塾のシーンは舞台を塾があるビルの屋上に設定しました。1回目の屋上の撮影は3月だったので、夏のシーン、冬のシーンどちらも撮りやすい気温だったのですが、その後天気の関係で度々延期となり（屋上は野外なので雨が降ると行えない為）、再度の撮影が6月となってしまいました。演者の皆さんには灼熱の日差し

の中でコートを着て頂き、冬のシーンを撮影するという精神的にも肉体的にもハードな撮影となりました。



とても負担をかける撮影となり申し訳なかったのですが、撮影後の体調不良も無いようでなんとか終える事が出来て安心しました。屋上での撮影は初めてだったのですが、何も遮るものがない屋上というのは日差しや風など、地上よりも体力を消耗する事を学びました。

家のシーンは、まず舞台となる家探しに苦労しました。小さな映画作りでは大きな予算がある訳ではないので、ロケ場所探しにいつも苦労しています。ようやく理想的な場所が見つかり、撮影の予定を立てたものの、演者の体調不良などで度々延期となってしまい、当初5月に撮影する予定が一ヶ月遅れの6月になりました。ただ、その一ヶ月の猶予の中で、改めて脚本を見直し、手を入れてより良くする事が出来たので結果的に良かったと思っています。

家の撮影でのクライマックスは、食事をしながら学校での出来事を親子で話すシーンでした。まだ自分が映画作りを始める前にある映画監督のドキュメンタリーを見たのですが、その監督は撮影中に感極まり、泣いていました。その当時は、撮影中に泣いたりするような事が自分にも起きるのかは分かっていなかったのですが、その後映画を作り始めて、同じように撮影中に感動して涙が出る経験が、多くはないですがあります。今回、家での撮影で久しぶりにそのような感極まる撮影が出来ました。とても何気ない会話のシーンなのですが、自分が想像していた以上のシーンを演者が作ってくれました。良いシーンが撮れたという余韻で何日も幸せな気持ちが続きました。これも久しぶりの気持ちでした。早く観てもらいたいです。



倫典を演じてくれた桑原ゆずさんは7月2日にすべてのシーンを撮り終えてクランクアップとなりました。振り返ると初めての撮影は2020年の11月でした。ずっと撮影していた訳ではないのですが、2年7ヶ月もの間「portrait(s)」

に関わってもらいました。実際にゆずさんの撮影日数を数えてみたところ、全部で30回でした。丸々一ヶ月分、撮影に費やしてくれた事になります。大事な時期の時間を、本当にありがたいです。

「portrait(s)」の思春期のパートとして、思い描いた形で撮り終える事が出来てホッとしています。

当初、子どもたちのパートはそこまで大きなパートとして考えていませんでした。それが導かれるようにどんどんと大きくなり、描きたいシーン、描くべきシーンが増えていきました。その理由のひとつには、倫典の友達役として大地を演じてくれた YUZUKI さんの存在がありました。YUZUKI さん演じる大地はたくさんのインスピレーションを与えてくれ、彼の存在は呼び水のように物語を大きくしてくれました。もうひとつは撮影場所との出会いがありました。各種 SNS やホームページで撮影場所募集の告知をしているのですが、それを見て連絡をくれた方のお家がとても素敵な場所でした。初めて見学に伺った時に、「あ、ここは大地の家だ」と思い、お泊まり会のシーンを作る事が出来ました。



そこからは、芋づる式にどんどんと描くべき事が明確に分かり、良いラストに着地出来たと思っています。子どもをメインにしたパートは portrait(s) を考えた当初から希望としてはありました。ただ、予算的な事や制作の規模を考慮すると、メインとして大きくは描けないと思っていました。

そんな中、予算的な面では、日本芸術協会様からの奨学金、そして一昨年文化庁からの助成金が大きな助けとなりました。そして、キャスティングに協力いただいた多くの事務所様のお力添えがありました。

最終的には、この作品にとってなくてはならないパートとして育ち、流れ出てきた描くべき物語は、思い描いた形で最後まで、納得いく形で撮り切る事が出来ました。

改めて、このパートに関わってくれたすべての方に感謝しています。ありがとうございました。

桑原ゆずさんから撮影後の感想を頂いたので、合わ

せてシェアさせていただきます。

桑原ゆずさん



「正岡倫典役で出演しました桑原ゆずです。この作品に初めて関わったのは2020年の11月頃でクランクアップまで約3年間撮影を行いました。その中で僕はスタッフさんや村上監督とも仲良くなれました。3年間という長いなかで身長が伸びたり服のサイズが合わなくなったりで大変でした。それでも現場は暖かく学校のシーンでは新しい出会いもありました。3年間の中で演技だけではなく他のことでも成長できたかなと思います。また関わる機会があればいいなと思っています。ほんとうにありがとうございました。」

<他パート撮影>

思春期のパート以外では、3月に桜を含めた撮影を行いました。

また、4月にも子どもパートから派生したシーンの撮影を行いました。撮影が長期化している中で引き続きご出演頂けている事に感謝しています。

<クラウドファンディングを開始しました>

過去の活動報告で、今後実施していく事としてクラウドファンディングの事を度々書いておりましたが、ようやく実施出来る事になりました。現時点で17名の支援者、281000円のご支援が集まっています。今回、クラウドファンディングは活動母体であるindust-filmの自前のページに設置しました。ホームページ制作は専門ではないので苦労しましたが、試行錯誤して設置する事が出来ました。過去に1度、クラウドファンディングを実施した事があるのですが、その時は既存のサービスを利用して行いました。今回、何故自前のホームページでクラウドファンディングを実施したかといいますと、発端は、あるクラウドファンディングのサービスで、とあるプロジェクトがキャンセルされた事例を見た事でした。そのプロジェクトは、支援が集まり、目標を達成したプロジェクトだったのですが、プロジェクトに反対している人から運営元にプロジェクト中止の訴えが届き、その意見に押される形でキャンセルの判断をされたという事でした。僕とし

では、一方的な意見だけを聞いてキャンセルされてしまう事はとても危険で、それは言論統制であり、表現の自由の侵害であると思える事案でした。

indust-film が掲げている「インディペンデントな映画作り」という理想の為にも、自前のホームページでクラウドファンディングを行う事で、どこからも圧力や検閲を受けない形で支援を集められる形を作れた事はとても誇らしいです。

なお、集まった支援金は、現時点ですべて、思春期パートの撮影の制作費として使い切ってしまったので、引き続きのご支援を期待したいと思います。

cf/クラウドファンディング

「portrait(s)」制作費ご支援のお願い

支援する



制作中の連続ドラマ「portrait(s)」を最終話まで良質な作品に仕上げる為、クラウドファンディングを実施中！皆様のご支援をお待ちしております。

¥281,000
raised

17
donations

¥1,000,000
goal

以上で2023年度奨学金の第1回の活動報告とさせていただきます。

思春期のパートを撮り終える事が出来たので、今年の後半は、編集をして、仕上げていく事もしていきたいと思っています。



indust-film